

ランチボックス制度導入を見送り

完全給食を調査・検討

平成25年度の実施目指す



第1回定例会の様子（織笠小学校6年生が傍聴しました）

アンケート結果を真摯に受け止め 真に望む完全給食を調査・検討

3月定例会は、2月19日から3月12日まで22日間の会期で開かれました。一般質問（11ページ19ページに掲載）には9人が登壇し、学校給食問題や産業振興策など幅広く町政について質問がなされました。町からは、介護従事者処遇改善臨時特例基金に関する条例や社会福祉憲章条例の一部を改正する条例など条例4件、補正予算6件、新年度予算10件などを含む24件を提案。総額114億円の新年度予算は4日間の予算特別委員会での審議の結果、すべて原案どおり可決されました。このほか岩手県後期高齢者医療広域連合議会の議員の選挙の実施、委員7人で構成する「議員定数検討特別委員会」の設置などを原案どおり可決し会期を閉じました。

実施について、今後、調査・検討を進める」との方向性を示しました。

馬場教育委員長は、教育行政に関する所信の中で

3月定例会初日の2月19日、平成21年度の施政方針と教育行政に関する所信が示されました。中でも、町長が施政方針で述べた「保護者が真に望む完全給食について、今後調査・検討を進める」という発言と、教育委員長が教育行政に関する所信で述べた「アンケート調査と事業採算性を考慮し、ランチボックス制度の実施は困難であると判断した」という発言に対し、議論が集中しましたので、その内容をお

知らせします。

沼崎町長は、施政方針の中で「学校給食については『ランチボックス方式を平成21年度の実施を目指し、調査検討する』と述べてきたが、昨年実施したアンケート調査によると、保護者の多くは、ランチボックス方式よりも完全給食を切望するものであった。先のアンケート調査は、学校給食について初めて町が保護者に問いかけたものであるが、この結果を真摯に受け止め、保護者が真に望む完全給食の

「学校給食に準じる弁当配達制度（ランチボックス）」については、平成20年12月議会でも『平成21年度の2学期からの実施を目指し、調査検討する』と述べてきたが、アンケート調査の詳細な分析の結果、ランチボックスを毎日利用したいという希望者は1387人中255人で18・4%という状況であり、事業採算性の課題も考慮し、実施は困難であると判断した」と表明しました。